

23年度

パドラーズトピックスー11

東日本大震災一ひとつの考え方の報告 気仙沼からの報告(5月21日～5月23日)



作業前の倉庫の写真です。

5月21日 南郷地区の小野寺家具さんの倉庫のガレキや家具とヘドロだしの作業から始まりました。秋田学生復興支援ネットワークの皆さんも一緒に参加していただきました。

代表の須崎さんは実はパドラーズが最初に気仙沼に入った時の学生のひとりでした。その後帰ってから、学生は学生で出来る支援があるのではないか。またボランティアに参加の仕方がわからない学生も多く、パドラーズとして参加した経験を生かして今回支援ネットワークを立ち上げ、何回となく被災地に行き活動をしています。本当に頼もしい限りです。



土嚢袋の使い方を説明



流れ着いた秋刀魚の処理

2日ぐらいはかかる作業も総勢44名でかかると午後3時ごろまでに全部片付き、依頼者の専務さんも驚いていました。こんなにきれいになりました。倉庫にはガレキと家具類が入り交じりながら山となり、運び出すだけでも大変で、車も倉庫の中に流されている状態でした。ヘドロの中には、サンマやフカヒレが大量に流れ着いて、悪臭とウジがわいていて、中々手が出せない学生を尻目に、パドラーズのお父さんがたは黙々と片付けます。

倉庫から出したがれきの前での記念写真です。

ウジを始めてみたという学生さんもいて勉強になったようです。

もう一箇所は家具屋さんの隣の武山さんの通路のゴミだしでした。



同じように魚がたくさん流れつき悪臭が気になるので片付けて欲しいと要請がありました。本当にくさいし、ウジがわいていました。



気仙沼湾では今でも流れ着いた重油が発火して火災が起きています。この日もちょうど火災が起きて、けたたましい消防車のサイレンがなり、地域は一瞬騒然となりました。長引く余震とともにこのような災害が続いています。



21日は塗装業が本職の中野さんが高圧洗浄機による武田眼科と個人宅の壁の洗浄を担当してもらいました。22日は熊谷さん宅の庭のヘドロだしと玄関の砂利洗浄を行いました。気仙沼のボランティアセンターにお願いしたが、約束の日に来なくて、困っていたようで、パドラーズに要請がきました。ここでも高圧洗浄機が威力を発揮し、玄関のヘドロ混じりの砂利をバスケットに入れて一つ一つ洗い流し元に戻す作業も行いました。熊谷さんの奥さんはここまでしてもらえと思わなかったようで涙ぐんでいました。



2件目は高山さんの砂利の駐車場をならして欲しいとのことでした。先日やはり気仙沼のボランティアセンターから来てもらいましたが後始末が悪く、キッチンとして欲しいと、これもパドラーズに要請が来ました。高山さんから差し入れとしてお酒をいただきました。感謝です。・・・



閉鎖された気仙沼中央警察署の前での記念撮影です。

3件目は水上さん宅の庭のヘドロ出しでした。地面を5センチくらい剥ぎ取り、土のうに入れる作業でした。玄関前は片付けることができましたが、玄関横の庭は出来ず、6月4日に行くことを約束して戻りました。



5月23日 陸前高田第一中学校での4回目の美容奉仕です。家も店も失い、この避難所で理容の奉仕活躍している柳下さんも、今回一緒に記念撮影に入ってくれました。私は運良く家族全員が無事で、この避難

所にお世話になっているので、せめても私ができるお手伝いが本職の理容サービスですと言っています。この避難所には何人かの美容師さんもいますが、肉親をなくしているため自らボランティアをしようとは思えないのではないかと語っていました。



今回は小野プロパンさんの協力を得て、瞬間湯沸かし器を持っていくことができました。今までのポンプ式と違ってお湯が勢いよく出るので気持ちよさが格段と進歩したようです。2台のシャンプーを同時に使うとお湯のデが悪く、今度はもう一台持っていこうと思います。今はお風呂も十分入れる環境になってきましたが、お風呂でシャンプーを行うにはつらい方もいて、2週間もシャンプーしないで、よごれたままでもいいと楽しみに待っていてくれる方もいました。夕方5時半ごろ終了して、皆さんに挨拶したときに、「ありがとう、また来てね」と言われてしまいました。「また来ます」ととっさに答えてしまいました。6月6日に来よう。



バスの中で秋田学生復興支援ネットワークの方々に震災当時の体験談を話す畠山さんです。学生さんも実際被災された方の生の話を聞くことが非常にためになるようで、秋田大学の教授の方からパドラーズに対して感謝の言葉もいただきました。パドラーズは南郷の方達や気仙沼で被災された方々とじっくり話す機会を行くたびに設けています。実際の体験談を肌で感じ、何か私達のこれからの参考になることがたくさんあります。今夜は地元でサッカーコーチの菅原さんからメンバーや学生さんに話してもらっている写真です。

また地元の伊東床屋さんを夜の食事に招待しました。側溝が気になるとのことでした。少しの雨でもあふれる側溝。衛生上これから特に問題があるので早く泥上げを地元の方も集めてやりたいと前向きな意見が出てとても心強く思いました。なんとか協力しなければ・・・

またボランティアの責任も問われと思います。約束や仕事の受けた内容にもよりますが、どこまでやればいいのかということです。地元の自主性と立ち上げまでの協力の微妙なバランスです。いつも考えさせられます。



左の写真は次回依頼を受けたホテル磯村の写真です。一階はご覧のように壊滅状態です。この瓦礫とヘドロ上げです。右の写真は南郷地区に張られた有料の請負のチラシです。私達の活動がその地域

の商売の邪魔をするというひとつの例です。いろいろな考え方がありますが、まず6月4, 5, 6日と約束なので行ってきます。

